

草地の更新を計画的に推進しよう!!

マメ科牧草がなくなったか、あるいは、極めて減少したイネ科牧草主体の草地は

△ちっ素質肥料をかなり多用しないと、生産があがらない (図1)

△ミネラルバランスが崩れている。ちっ素を多用すると、一層悪化して、起立不能症候群などの疾病が発生する危険がでてくる (図2)

△収量が多くても、少なくても、収穫作業に要する機械費用は変わらない。

△放牧地であれば、歩く時間ばかりが増えて、その割合に栄養分を摂取できない。

△冬枯れが発生しやすくなる。

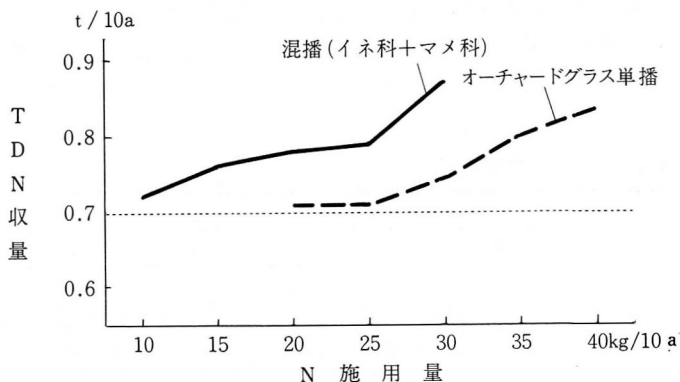


図1 N施用量とTDN収量 (2年目草地; 新得, 昭48)

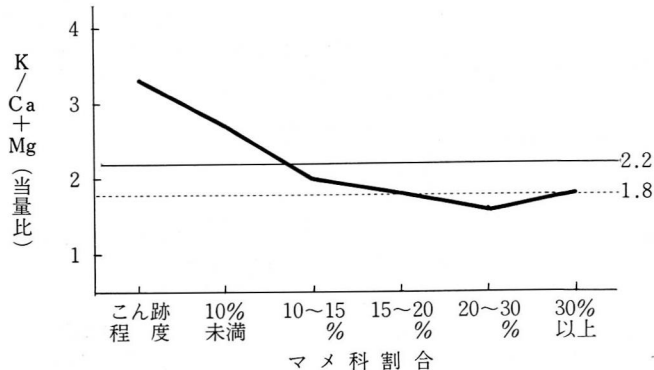


図2 マメ科割合とK/Ca+Mg (当量比) (早来, 昭54)

注) 1.8程度から発症がみられ、2.2を越えると発症率が高まるといわれている。

量的・質的に低下し、利用効率も著しく低下して、コストの高い粗飼料となる。

●更新してもエサ不足にならない方法 → 近く発行する **予約カタログ** で来年の営農計画にとりあげよう。 **グ** (「牧草と園芸」1月号増刊) を参考にして下さい。